

会 議 録

会 議 名	平成29年度第1回野田市立図書館協議会
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	1 委員長及び副委員長の選出について（公開） 2 平成28年度事業実施状況報告について（公開） 3 平成28年度運営数値目標の結果について（公開） 4 平成29年度事業について（公開）
日 時	平成29年8月24日（木） 午後2時から3時40分まで
場 所	樺のホール2階 興風図書館会議室
出席委員氏名	委員長 筒井 圭子 副委員長 河合 章男 委 員 青柳 康幸、村越 健志、山田 喜美子、文道 尚子、 小山 祐子、鈴木 美由紀、大澤 一秋
欠席委員氏名	武井 信一、石原 和子
事 務 局	東條 三枝子（教育長） 杉山 一男（生涯学習部長） 寺田 幸生（興風図書館長） 染谷 尚之（興風図書館館長補佐兼図書サービス係長） 真部 仁（興風図書館庶務係長） 加藤 敦子（興風図書館図書サービス係主査） 新宮 めぐみ（南図書館長 指定管理者 TRC野田グループ 株式会社図書館流通センター） 関 秀隆（北図書館長 指定管理者 TRC野田グループ 株 式会社図書館流通センター） 金子 治彦（せきやど図書館長 指定管理者 株式会社図書館 流通センター） 瀬戸 英輔（指定管理者 TRC野田グループ 株式会社図書 館流通センター）
傍 聴 者	無し
議 事	平成29年度第1回野田市立図書館協議会の会議結果(概要)は、次のとおりである。

興風図書館庶務 係長	委員 11 人中 9 人の出席により会議が成立していること、 会議を公開することとしていること、傍聴の申出がないこ と、会議録作成のため録音機を使用することを報告する。
教育長	〈東條教育長が挨拶を行う〉
興風図書館庶務 係長	6 月 1 日で新たに委員をお願いしたので、名簿順にその場 で自己紹介をお願いしたい。
	〈委員及び事務局自己紹介〉
興風図書館庶務 係長	会議を始める前に、野田市立図書館協議会委員の役割につ いて興風図書館長より説明させていただく。
興風図書館長	〈野田市立図書館協議会の役割について説明する〉
興風図書館庶務 係長	〈会議資料について欠落等がないか確認する〉
興風図書館庶務 係長	それでは、議題に入らせていただく。
	議題 1 の委員長及び副委員長の選出について、委員長が選 出されるまでの間、東條教育長に議長をお願いする。
教育長	それでは、議長が選出されるまでの間、議長を務めさせて いただく。
	議題 1 の委員長及び副委員長の選出についてを議題とす る。野田市立図書館の管理及び運営に関する規則第 19 条の 規定により、図書館協議会の運営方法等に関しては、野田市 社会教育委員会会議規則の規定を準用することと定められてお り、野田市社会教育委員会会議規則第 1 条第 1 項では、委員長 及び副委員長各 1 名を置き委員の互選により選任すると規定 されているが、その方法についてお諮りする。
文道委員	推薦が良いと思う。
大澤委員	立候補も有りだと思う。
教育長	ただ今、推薦が良いのではないかと、また立候補もあるので はないかという二つの意見があった。それ以外に何か付け加 えるなどあるか。
	〈発言を求める委員無し〉
教育長	それでは推薦と立候補のどちらの方法で選任するかという ことであるが、それについて意見はあるか。

大澤委員	推薦というのはどちらかというと消極的な選び方だと思うので、できればポジティブに立候補制がふさわしいのではないかと思います。ほかの審議会で募集していても同じように思っている。
教育長	今、よりポジティブな姿勢が良いのではないかという意見があった。ほかにはいかがか。
文道委員	どうしてもということであれば別だが、本年度に関しては新しい委員も増えているので、昨年までやっていただいた方に一人でも二人でもやっていただけたらよいのではないかと思います。
大澤委員	私は、人が代わっているからこそ、この機会を使ってより違う今までとのやり方で運営するようにしていった方が良いと思っている。そのような変化もチャンスだと思う。
文道委員	人が代わっても代わらなくても、毎年変化は皆さん考えて、してきているようなので、私としては今までやっていることと同じことをやってきたという感じは全然ないので、人は同じでもそれは変わらないことだと思うが、いかがか。
大澤委員	それであればこそ、別に毎年変わっているのであれば、前回、前2年経験した人から推薦して選ぶ必要はないと思う。
教育長	それでは、立候補が良いのではないかという意見もあったし、推薦が良いのではないかという意見もあったので、どちらを優先ということではなく、手を挙げる方には挙げていただき、またこの方には是非お願いしたいという推薦があればそれを出していただいて、その後に挙手で決めるというのはいかがか。
大澤委員	いや、推薦されて、それを受けてやるのであれば、始めから立候補すべきだと思う。人から言われたから、じゃあ言われたからやりますと、そのような姿勢は良くないというように思うので、併用ではなくて、立候補なら立候補で行い、立候補がいなければ、それは指名推薦で良いと思う。
教育長	今、大澤委員からそのような意見があり、意見が二つある。

文道委員	それでは、昨年やっただいて、いろいろなことでこの図書館にも御協力をいただいていたお二人の方に立候補をしていただきたいと思うが、お願いできないか。
筒井委員	立候補する。
教育長	筒井委員が立候補されたが、ほかに立候補する方はいるか。
大澤委員	はい。立候補する。
教育長	今、去年お二人がという話があったが、副委員長というとか。
文道委員	副委員長はいかがか。立候補していただけるか。
河合委員	それは一緒にやるということか。今は委員長を決めていると思う。
教育長	ほかに委員長に立候補される方はいるか。 それでは、筒井委員と大澤委員が立候補された。期せずして推薦したいと思っておられた方が立候補の運びになったということもあったが、お二人立候補者が出たということで、ここは挙手ということで決定したいと思う。 それでは、名簿順でいきたいと思う。筒井圭子委員に賛成という方は挙手をお願いしたい。 〈挙手する委員有り〉 8名ということである。それでは、大澤委員にという方。 〈挙手する委員有り〉 それでは、挙手多数により筒井委員に委員長をお願いしたいと思う。どうぞよろしくお願い申し上げます。 それでは、委員長に就任の挨拶をお願いしたいと思う。 〈筒井委員が委員長席に移動〉 ただ今、委員長に就任した筒井です。昨年度から引き続き委員長をさせていただく。私は、先ほど自己紹介でも申し上げたが、ちょうど今年で30年目となるが、図書館と小学校、学童保育所などでおはなしボランティアを継続している。 昨日、北図書館のボランティアの当番であったが、おはな
筒井委員長	

	し会を始めようとしたら、夏休みにも関わらず一人だけしかお子さんが見えなかった。途中からもう一人見えたのだが、夏休みということで普段常連の方も来てくれなかったみたいで、ちょっとさみしいなという気持ちであった。 子供の時から本に親しんでほしいという気持ちで、ずっと30年続けてきた。図書館とも協力していろいろな努力はしているが、なかなか子供たちが図書館に足を運ばないという状況はずっと続いているので、これを何とかしたいと思う。至らないところも多いと思うが、皆さんの御協力をよろしくお願いしたい。 それでは、続いて副委員長の選出を議題とする。副委員長についても、委員長同様に委員の互選となっているが、いかがか。 これも立候補で。 立候補という意見が出たが、ほかにはどうか。 河合委員、昨年同様をお願いできないか。 ただ今、また立候補という意見と昨年同様河合委員をお願いできないかという意見があったが、ほかに選出方法として意見があるか。 もしやらせていただけるなら、私が立候補させていただいて、お許しをいただけるならと思っている。 今、推薦をいただいた河合委員から立候補するという言葉があったが、ほかに立候補される方はいるか。 〈ほかに立候補を表明する委員無し〉 それではお諮りする。立候補された河合委員を副委員長にということで、賛成の方は挙手をお願いしたい。 〈挙手する委員有り〉 今、6名の方が挙手されたので、河合章男委員を副委員長にお願いしたいと思う。 先ほどと同じように、一応二人とも決を採った方がよいのではないか。 今、大澤委員は立候補されたか。
大澤委員	
筒井委員長	
文道委員	
筒井委員長	
河合委員	
筒井委員長	
大澤委員	
筒井委員長	

文道委員	今、閉じたところである。
大澤委員	先ほど立候補したつもりである。
筒井委員長	委員長に立候補されたのではないか。
大澤委員	いえ、副委員長にも立候補したつもりである。
河合委員	立候補するとおっしゃっていた。
筒井委員長	それではお諮りする。大澤委員に賛成の方は、挙手をお願いしたい。
	〈挙手する委員有り〉
	失礼した。１名ということで、河合委員にお願いする。
大澤委員	私の提案で立候補制に結果的になったので、新しいやり方でできたことは非常に良いかなと。要は、台本がありきのような指名推薦という形ではなく、一応委員長も副委員長も決められたので非常に良かったと思う。感想である。
筒井委員長	それでは、河合委員にこちらの席へ移動をお願いしたい。
	〈河合委員が副委員長席に移動〉
筒井委員長	それでは、河合委員に副委員長に就任の挨拶をお願いしたいと思う。
河合副委員長	河合です。今年もよろしくお願いしたい。今、大澤委員から意見を頂いて、ちょっと元気な会になりそうなので、期待をして今年もやらせていただこうと思っているので、よろしくお願いしたい。
筒井委員長	それでは、次に議題２の平成２８年度事業実施状況報告についてを議題とする。事務局より説明をお願いしたい。
興風図書館館長 補佐	〈平成２８年度事業実施状況について報告する〉
筒井委員長	ただ今の説明について、意見、質問等があるか伺う。
大澤委員	これは意見だが、４ページの受入数・除籍数の表について、各館ごとの一般書とか児童書とか視聴覚資料とかの分類があるが、これの中身を更に分けて分析とか統計を見せることはできないか。一般書といってもいろいろな種類があると思うが、要はこれだと、どういう本が動いているのかが見えない。そのようなことがやれたら、もっと違った見え方がで

筒井委員長	きるのではないか。 それと次に 6 ページのグラフ、このグラフだけではなく、その前の 5 ページの④の貸出冊数の表もそうなのだが、6 ページのグラフでいうところの横軸の年齢、先ほどの説明の中でもあったが、年齢幅が一定ではない。0 から 6 歳、7 から 12、6 年間、13 から 15 歳、3 年間、それでミドル層とっていいのか、中高年以上は 10 年間という集計範囲になっている。それで単純に冊数をグラフにしても、これは見え方としては、実態を視覚に訴える形にはなっていないのではないかと思う。 それで、私は自分でエクセルでやってみた。何をやってみたかという、6 ページのグラフについては登録者当たりの貸出冊数、グラフにするとときに登録者で割ってみた。例えば、0 から 6 歳は登録者数が 870 人、貸出冊数は 41,694、それを割ると 1 登録者数当たり 47.9 冊というように、1 登録者当たりの冊数にしてグラフにすると、微妙にちょっと見え方が違う。要は、問題点の見え方が、課題の見え方が違ってくるのではないかということである。 それと全く同じことが、7 ページの⑤の利用登録者数の表とグラフ。これはもっと決定的に見え方が違って、これはどう変えるかという、年齢帯別人口あたりの利用登録率にする。要は、人口当たりの登録者数の率、例えば一例を挙げると 0 から 6 歳は利用登録者数は 870 人だが、これは年が合っていないが平成 28 年の野田市の 0 歳から 6 歳の人口が 7,935 人である。これは平成 27 年はなかったので、総務省の国勢調査のデータから持ってきた。それで割ると、11 パーセントである。 そのようにやっていくと、全然グラフの見え方が違う。ちょっと長くなったが、グラフの見せ方として変ではないのか。私は専門家ではないが、統計学と言ったらいいのか、そのような面から変なのではないかと思った。 ただ今の統計のとり方、グラフの見せ方について、事務局
--------------	---

興風図書館館長 補佐	から説明を願う。
大澤委員	先ほどの登録者当たり、また人口当たりということで、資料の方を整理していきたいと考えている。 ちなみに焼いてきたので差し上げる。 〈大澤委員がプリントされた紙を事務局に手渡す〉
筒井委員長	より実態を把握しやすいように、統計の採り方を工夫していただくということで。
大澤委員	多分、これは冊数が目標である。図書館として冊数をどれだけ貸し出しているかということを目標にしているから冊数というふうにこのグラフを作っているが、多分、その統計だけでは本当の問題点、要は、多分単純に冊数は減っていく、単純に考えても利用者は減っていく。その本当の本質の問題点というか課題はどこにあって、どこにどういう施策を打てばよいかということを考えようとしたときに、多分、単純な冊数の今のこのやり方では本当のところが見えないなというように思った。
筒井委員長	ほかに意見はあるか。
興風図書館長	今、大澤委員からいろいろな貴重な意見を頂いた。こちらでもこれに加えてそのような意見もあったので、充分検討して分かりやすい、皆さんにより御理解いただけるようなものを検討してまいりたいと考えている。
筒井委員長	よろしく願います。
河合副委員長	ちょっと分からないから聞くのだが、今、大澤委員から御質問とか御意見があったのは、ここに出す資料をということなのか。それとも、一般に公示するということなのか、それとも内部的に図書館が今後の運営を進める場合にということなのか。ちょっとそこが分からなかったのだが。 ここに出す資料ということでいうと、労力がちょっともつたない。私も公務員をやっていたので、議会のために無駄な時間を随分取られたような記憶があるので、無駄な仕事をさせるのも申し訳ない。
大澤委員	決して無駄にはならないと思っている。要は、この委員会

	は先ほども言ったように、図書館の貸出数は減っていくので、図書館をもっと有効利用、活発に利用してもらおうというのが一つの目的である。諮問を受けて答申をするというところも、次年度の目標冊数というところなので、冊数が目標というのはそれはそれでいいのだが、それを満足させるためにどういうことをやればいいのか。多分、その努力として、いろいろな催し物をやったり、いろいろやっているはずなので、そういったことがそのようなことにつながることにちゃんとなっているのかということ判断する上でも非常に重要な情報だと思う。 労力の面ではエクセルでやれば簡単な話なので、労力はそれほどにはかからない。大昔の時代とは違うということである。これは私が、素人が作るにしたってほんの10分やそこらでできる話である。
生涯学習部長	まずちょっと確認したいが、大澤委員が先ほどおっしゃっていた一般書、児童書、その中の区分の分け方というのは、先ほど4ページの例示で出されたが、その部分、要は受入状況とか除籍状況の中身辺りまでか、それとも貸出状況まで欲しい、どういう本が動いているという言い方をされたので、早い話が2ページ、そこに該当してくるのが、類別の貸出しは出しているので、例えば0類の総記、それから1類のところとか、2類とか、そのような貸出冊数はすぐに統計が出せると思う。そのようなやり方でいいということであれば、あと絵本の貸出しとかそのようなことでよいのか。
大澤委員	そのようなことである。
生涯学習部長	貸出しと、それは受入れも含めてということか。
大澤委員	そうである。
生涯学習部長	それから年齢区分のところだが、確かに年齢区分が10代、20代という話になっていないが、これはこちらで生活態様に合わせた区分で考えていて、0から6は幼児、7から12は小学生、それから13から15は中学生、16から18は高校生、19から22を大学生と括ってしまうのはちょ

	っと乱暴かもしれないが、そういった生活の様態がそれぞれ20代で括ってしまうのは非常に難しい。10代で括ってしまうのも難しいということで、このような作り方をしている。統合するのも問題はないと思うが、アプローチの仕方としていろいろ切り口があるので、例えば13から15であれば当然中学生が想定されることなので、このようなものも必要だと思っている。御要望に応じて、10代、20代という作りはできるので、それはそれで検討するが、根っこにあるのはそのようなことだということは一応御承知置き願いたい。
大澤委員	今の説明で、6ページに限らず年齢の区分というのは、要は、年齢という意味ではないということであるが、ただ第三者から見ると分かりづらい。結局、今回の公募委員のテーマでも高校生の利用者が少ないという話であり、その対策が論文のテーマであったと思うが、昨年これを私は見ていたので、確かにこの辺少ない、非常に単純に、極端に少ないという感じを受けて、そのようなテーマなのだなと思ったのだが、だけど実は単なるそのようなことでもないような気がするので、意味を知らないと、この見せ方ではやはりそのようなミスリードをしてしまう。
生涯学習部長	いずれにせよ、根っこにあるのはそのようなことだと御理解をいただければ。
大澤委員	分かった。
生涯学習部長	あわせて、そのような御要望があるものについては工夫させていただきたい。 それともう一つあったのは、先ほどおっしゃっていたのは、いろいろ見せ方の切り口の問題だと思うので、こちらもありとあらゆる、まあ、ありとあらゆるというと手間の問題も出るので、おっしゃるようにエクセルでデータを持っている部分は加工してどういうところに問題があるのか、それは明確にしていかなければならないので、それはちょっと工夫してみる。それは、ちょっと相談させていただくような形で

大澤委員	進めたいと思う。
生涯学習部長	だから、目的に応じた見せ方をしていれば良いのだと思う。
河合副委員長	その辺は、皆さんの御協力を頂けたらと思うので、よろしくをお願いしたい。
大澤委員	ちょっと質問したい。全然違う視点になってしまうのだが、今御意見の中でもしかしたら事務局もそうなっているのかもしれないが、前からこれは申し上げているが、数値目標を達成するという実に現代的なというか近代的な御発言があったが、ただ僕はそれをそのまま是とはできないので、動員ということになったら意味がない。数値目標を達成する気だったら、学校を動員すればすぐにいってしまう。そのようなことにならないように、数字をただ単純に追いかけるのではなく、実質このまちの文化をどう向上させるかという視点を忘れずにお願いしたいと、ちょっと口を挟んでおきたい。 全く同感である。その後、これからコメントしようと思っていたが、数値目標というものはよくありがちである。申し訳ないが、役所のやり方としては数値目標というのは簡単なやり方なのでやりがちなのだが、私は民間企業出身なので民間企業ではどうやるかという、非常に難しいが単に数値目標だけではなくて内容や質といった評価指標も作る。 だから、図書館の場合も単なる数値目標だけではなくて、その利用の質というものも今ビッグデータ、多分、いろいろ統計情報をいじれば作れるはずなので、ビッグデータの考え方であるが、それをうまくやればどういう使われ方をしている質のところも数字の中から見える可能性が、見えるはずだと思う。そのような意味で、要は、先ほどの児童書とか一般書とか視聴覚とかその辺の更に細かいところ、その辺もそのようなところにつながるのではと思っている。 それから関連するが、16ページのレファレンスについて、事前に去年の議事録を見ていたら河合委員が質問されていたのでどうしようかと思ったが、そのときの質問はこのレ

筒井委員長 興風図書館図書 サービス係主査	ファレンスの中身はどういう内容なのかという質問をされていたのでそこはいいのだが、昔は図書館の一つの大きな機能として、やはりこのレファレンスサービスというのは本来すごく大きな位置を占めていたと思う。情報検索というところにつながるのかと思うが、野田を調べたら、たまたまネット検索をしていたらレファレンスのデータベースというのがあった。国会図書館が運営していて、レファレンス共同データベースというものがあって、全国の公立、私立、学校、学校というのは多分、大学とか私立高校とかそのようなところだと思うが、図書館が753館加盟していて、各図書館で受けたレファレンスの、レファレンスというのはただ単にこのような本がありますかという単純な質問じゃなくてかなりディープな内容のレファレンス、そのレファレンスの結果をこのデータベースにあげて全国で共有して使うということをやっている、残念ながら野田は参加館になっていなかった。千葉県では23館しか入っていないのだが、このようなものも入っていない理由があるのか知らないだけなのか分からないが、図書館サービスの質を上げるという点ではレファレンスサービスも、何かやっていく必要があるのかなと単純に思う。 事務局、加藤さん、お願いします。 確かに国会図書館の共同データベースには参加していない。その理由については、私の方では現時点では確認していないが、ただ野田市内の図書館の館内LANの中で、市内で受けたレファレンスを共有するためのデータベースは持っている。よって郷土資料であるとか、そういったものの中で過去に受けた質問と類似のものがあつた場合、そちらのデータベースの方を見て回答することが可能なシステムは作っている。 あと、手間のかかったレファレンスについては、紙ベースでも記録を取っている、その紙ベースを基にしながら共有できるようなデータベースにあげていくという形を現在採
--------------------------------------	---

大澤委員	っている。 なおさらそれは、要は、他館にも展開して逆にこれ検索してみると、結構他館がまた野田のことを調べていたりする。他館の図書館の司書さんがそこに登録している。 やはり、お互いギブアンドテイクということもできるので、結果的になるのであるから積極的にこのようなところを使っていいのではないのか。国会図書館なのだから、お金がかかるわけでもなさそうな気がするのだが。
筒井委員長	ほかに御質問、御意見等はあるか。
大澤委員	これは単なる質問かもしれないが、良いか。
筒井委員長	はい。お願いする。
大澤委員	16ページで、（イ）の予約サービス、これのうちの69パーセントがインターネット経由だということだが、処理状況のところで購入とあるが、購入というのはどういうことなのか。何か窓口でもネットでも予約したら野田市の図書館にはないのだけれども、どこかから、どこかのほかの市外の図書館から借りてくればあるとすれば、それは借用になるわけである。そこで購入するというのは、どういう判断になるのか。
興風図書館図書サービス係主査	基本的には、他館から、他市町村から借りる場合であるが、新刊の本は借りられないことになっている。当然その市町村の住民に優先的に回すべき本なので、そのような約束事があるため、新刊については基本的には購入する。ただ、県立図書館の場合には、専門書が多いということもあるが、当然私どもは県に対しても税金を払っている関係もあるので、新刊でも借りることができる。よって、専門的なもので市内ではさほど需要がないという場合には、新刊図書でも県から借りることはできる。ただし、市町村間の貸出しは一定のルールの下に行うので、新刊は購入するケースが多いということが主な購入内容になっているかと思う。そのほかには、特にこの本は市内にあった方がよいという判断をする場合もある。

大澤委員	ではもう一点、今のものに関連するが、予約ではなくてこのような本を、特に私の場合であるが、このような専門書を買ってくれないかと、そのような受付制度みたいなものがあると思うが、それを私の友人に話をしたら、そのようなものがあることは分からなかったので、この間、市政メールで出したのだけれど、それは図書館に言えばいいのではないのと言ったところなのだが、確かに分かりにくい。そのような制度があっても分かりにくいので、新しく購入するという面でその辺どうにか改善できないかなと、これに関連で思った。
興風図書館図書サービス係主査	基本的には購入するか借用するかの判断は図書館側にお任せいただいている。よって、この本はどうしても良い本だから買ってくださいという前提での予約というのは受けていない。
大澤委員	だから、この予約サービスという統計の中にはそのような、このようなものを買ってくれないかという要望というのは件数としては入っていないということか。
興風図書館館長補佐	それは入っている。
興風図書館長	お受けはするが、絶対に買うものではない。
大澤委員	入っているということで、分かった。
興風図書館長	御要望に応える場合もできるし、できない場合もある。
生涯学習部長	それは、利用案内とかホームページに掲載したい。確か記載していたような気もする。
大澤委員	紙がカウンターのどこか横の方に置いてあるような気がしないでもないが、私の友人は全然分からなかったと言っていた。私の友人はお年寄りなので、特にお年寄りは分からない。
興風図書館図書サービス係主査	あと、補足であるが、本については購入するかしないかはこちらの判断にお任せいただいた上で予約カードというものを出示してもらう一元的なものであるが、CDであるとかDVD、視聴覚資料やコミックについては、他市町村から借り受

大澤委員	けることはできないので、それについては通常の予約ではなくて購入希望という用紙に書いていただいて、購入できるものについては購入していく形になっている。 18ページ、読書手帳というのは非常に良いと私は思うのだが、これもちっと要望になるが、これは電子化できないのかと。要は、今だったら若いお母さんもスマホでこれをやれたらよいのではないのかと思う。 今の野田市の図書館のホームページを見ると、確か利用状況のマイリストという機能がある。そこにリスト1から5まであって、各100件、合計500件登録したりして自分の履歴を自分では登録すれば管理できる。要は、マイ図書館、バーチャルマイ本棚みたいな使い方ができるというふうに聞いているので、これは良いなと思うのだが、ちょっと先ほどの読書手帳に関係するところだが、自動的に自分が借りた履歴を見ることができないのかなと。それは、個人情報の取扱事務との関係が出てくるのかもしれないが、うちの妻は非常にヘビーな図書館の利用者である。多分、ものすごい量を借りていて、やはりそのようなことができると非常に有り難いと言うのだけれども、私も実際に何年か前にこのようなものを借りたのだけれども、何であったか思い出せない時に、そのような自分の履歴が見られると非常に効率よく使えるのではないかなと思う。その辺は先ほど言ったように個人情報の絡みがあるのかもしれないが、やってやれないことはないと思うのだけれども、もうちょっとその辺はどうなっているのか。
興風図書館長	こちらでも、今この読書手帳についてはATMの機械で手帳を入れると記録が出るというようなところも、導入しているところもある。近隣だと、松戸が始めた。ただ、こちらもそれを検討したが、かなりコストがかかる。それで今のシステムでは、大澤委員からの御要望のようなことはできないことになっている。そもそもシステム上で、できない。 それで、提供はできないので、どうしたら皆さんにそうい

大澤委員	ったことをフォローできるのかなということでこれを始めたわけである。これを始めた中で、ダウンロードを今ネットで、ホームページで帳票をエクセルで作ってあるので、それをダウンロードしてエクセルで管理していただければと思っている。そのくらいしか今のところは申し訳ないのだが。 確かにコストの見合いがあるので、何でもやればよいというものでもないのでは分かるのだけれども、今の時代できると非常によいなと。多分、ここにいる年代のよりはるかに皆さんITを使いこなす年代であるので。
河合副委員長	ちょっとそのことで口を挟んで申し訳ない。 ほかのことでもずっと思っているのだが、唐突な意見を言うが、もう少し理科大に御協力いただくということを市政は考えた方がよいのではないかと考えていて、まちの文化ということに関して大学があるのに、このままではいつの間にか流山の大学状態になっているので。 例えば、今、おっしゃったアプリの開発は若ければ私でもやったと思う。つまり、それほど簡単である。だから理科大の研究室に持っていけば学生さんのアルバイトでできてしまう話である。 ただ、それよりも根っこは、おっしゃったように個人情報なので、ブラッドピットのセブンという映画を御覧になったかもしれないが、元FBIが図書館の閲覧情報からちょっと危ない犯人を割り出すというのがあったが、図書館の個人情報というものが、事程左様に憲兵になってしまう。 よって、私が前に考えたのが、サーバーには残さない。借り出したものが端末、つまりアプリの方、そのスマホの方にだけデータが残る。そのようなシステムを作れば誰にも文句を言われぬ。システムエンジニアだったらのぞけるが、あの世界は全てがそうなので。それはしないことにして。 であるので、理科大に地域のためにということで御協力をいただけるのであれば、簡単なアプリを作っていただければできるのということとは私も思っていた。

筒井委員長	それは参考意見ということで、議題を進めさせていただく。平成２８年度事業実施状況報告については、報告事項なので御了承をお願いする。 それでは次の議題に移る。平成２８年度運営数値目標の結果についてを議題とする。事務局より説明をお願いする。
興風図書館長	〈平成２８年度運営数値目標の結果について報告する〉
筒井委員長	ただ今説明について御意見、御質問等あったらお願いします。
大澤委員	先ほどと意見は重なるが、３０年度に、やはりこのような目標設定をする。難しいことを言っているのは分かるが、そのときに、やはり数値目標だけではなくて何か利用の質を何かの形で表現できないか。その上で、それも目標の一つとすることができないのかなと。ちょっと具体的に提示できなくて申し訳ないのだけれども、何か考えてみる価値はあるのではないかと思うのだが。
興風図書館長	数値目標については、次回、第２回の図書館協議会で諮る予定である。当然その数値目標を実施する、実施というか達成するためにはどういう形で事業をやっていったらよいのかということを説明した上で皆さんに審議をいただくことを考えているので、例示になってしまうがあくまで目標というのは、それぞれの課で考えた目標であるので、この二つで総合計画にも載せているので、そのような形で進めさせていただければと思っている。ただ、その数字は、どういう形でやっていくかというのは、その際に示させていただきたいと思っている。
大澤委員	数値でも、数値で質を表現することになるかどうか分からないけれども、例えばであるが、どういう本が、端的に言うと、漫画がいっぱい借りられているのか、小説がいっぱい借りられているのか、単純にであるが、私の基準ではそれだけでも一種の質、質の表現になり得るのではないかと。 要は、漫画ばかり公立図書館で借りられていて、凄く使われているのと、文学作品がいっぱい読まれている、漫画も文

興風図書館長	化だと言えそうなのだが、やはりちょっと違うかなと思うところもあるので、漫画で読む文学作品もあるのでしょうけれども、最低限そのくらいのことは表現してもよいのではということである。 今、現在でも内部的にはそういったコミックとか、ヤングアダルト図書とか、一般書とか、そのような形で分類はしている。ちなみに、去年のことを簡単に説明させていただくと、今こちらで統計を取っているのが、一般と児童書と雑誌とヤングアダルトと、郷土、コミック、CD、VD&DVD、その他という形の分類で打っているの、このような形のデータはもし御要望であれば提供できるかなと思う。
筒井委員長	ほかに御質問がないようであれば、ただ今説明のあった平成28年度運営数値目標の結果については、報告事項なので御了承をお願いします。 それでは次の議題に移る。平成29年度事業についてを議題とする。
興風図書館館長 補佐	〈興風図書館の平成29年度事業について説明する〉
南図書館長	〈南図書館の平成29年度事業について説明する〉
北図書館長	〈北図書館の平成29年度事業について説明する〉
せきやど図書館 長	〈せきやど図書館の平成29年度事業について説明する〉
筒井委員長	ただ今の説明について御意見、御質問等あればお願いしたい。 〈発言を求める委員無し〉 御質問がないようであれば、ただ今説明のあった平成29年度事業については報告事項なので御了承をお願いします。
大澤委員	これで本日の議題は全て終了したが、ほかに何かあるか。 意見であるが、野田市のホームページの基本ページにバナーがあり、郷土博物館とか観光協会とかがあるが、なぜか図書館のホームページのバナーがない。
生涯学習部長	野田市のホームページの一番上に出ていないということ

大澤委員	か。 トップページに、右の方にバナーということで四角いあれで博物館など幾つか並んでいるのだが、他所の自治体のホームページを見ると、大体図書館というのは市のホームページのトップのどこかにあるのだが、なぜか野田市はない。私は個人的に不便と思っている。
生涯学習部長	協議する。
大澤委員	それと、去年の８月からは、野田市の審議会、協議会、この協議会も含めて会議資料、議事録、全て野田市のホームページに公表されるようになった。私もそれを頻繁によく使っているが、図書館協議会についてはそもそも図書館のホームページがあるのだから、そこにもリンクを貼るべきではないかと思う。図書館の協議会なのだから、図書館のホームページからリンクがないというのは何か変ではないか。貼るべきではないか。
生涯学習部長	図書館のホームページからそちらへ飛ぶようにすればよいのか。
大澤委員	飛ぶのか、どうするのかは分からないが。
生涯学習部長	ほかの協議会も同じであるか。
大澤委員	いや、ほかの協議会はそのようなホームページがないではないか。例えば、行政改革推進委員会のホームページがあるわけではないから。図書館というホームページがあるわけだから、図書館の協議会はやはりそこに属していないと変ではないかと。
生涯学習部長	検討する。
大澤委員	その２点だけである。
筒井委員長	ほかにはあるか。 （委員から質問を求める発言無し） それでは、以上をもって平成２９年度第１回野田市立図書館協議会を閉会する。